京都舞鶴港スマート・エコ・エネルギーマスタープラン
第二回検討会議　議事概要

1　日時：平成 29 年 11 月 15 日（水）午前 10 時 30 分～12 時 30 分

2　場所：舞鶴グランドホテル　扇の間

3　出席委員（五十音順、敬称略）

上治委員　近江委員　小林委員　篠原委員　高井委員　田端委員　内藤委員　盛岡委員

（御欠席）

安達委員　上村委員　木下委員　沼田委員　早坂委員　山本委員

4　議事

（１）挨拶

（２）マスタープラン骨子案について

5　主な意見

（１）マスタープランについて

・将来的な理想の絵姿をプランに描いていくことが重要であるが、実現可能性も考慮すべき。

・短期・中期・長期の施策も達成可能度など考慮して分類を精査するべき。

（２）エネルギーについて

・低炭素化に努める先進的企業は、停電時にも対応できるメリットがある再生可能エネルギー源に近接した地域へ立地を希望する傾向がある。企業誘致に活かしてはどうか。

・地元で生み出されたエネルギーを地産地消の観点からライトアップやプロジェクションマッピングに活かしてはどうか。

・東アジアの経済活性化に伴い、ＬＮＧ需要が増えている。東アジアを視野に舞鶴にＬＮＧ基地を整備することもエネルギー拠点化のひとつとして検討してはどうか。

（３）港湾・物流について

・コンテナのＩＣタグ化は、京都舞鶴港の現状では突出して見えると考えており、まずは手作業の荷物管理をコンピューター化することが先決。

・シンガポールでは港湾輸送の自働化を行っているが、これが港湾振興にも繋がるのではないか。ＩＣタグ化することで、生産性が２０％近く向上した事例もあり効果も見込める。

・南北に長く、港湾数が多い日本の地理的状況を理解して施策を検討するべき。

・現状ではクルーズ船が増えると貨物船と客船のバース（停泊場所）をきれいに分離することは困難ではないか。

・現状では突出した内容であっても、将来目指すべき絵姿としてマスタープランは描くことが必要。

（４）観光（おもてなし）について

・自動運転の走行試験の取組を観光集客向けに行う有効な先行事例がある。

・翻訳機能つきレンタカーなどは海外客からのニーズが高い。

・観光デジタルサイネージは内容が重要。また、内容を、旅の前・最中・後に切り分けて考えるべき。近隣で実施中のイベントなど観光情報のリアルタイム発信も有効。

・多様な観光客に対応するため、カード決済や電子決済、通訳も確保していくべき。

・現在舞鶴でのフェリー利用の外国人旅行者は少ないが今後は増える可能性もあるため、その対応の検討が必要。

・クルーズ船等の増加に伴い、公共交通ネットワークの充実が必要。

（５）情報化について

・国内物流の情報取得により、港湾事業者等にとってのメリットを明らかにすることが必要。

・３Ｄマップは、日本では殆ど未整備。舞鶴がそのような取組を行うならば国内では先進事例にな

り、自動車メーカーにとって自動運転化の魅力的な実証フィールドになるのではないか。

６　事務局から連絡

・１１月２７日のワークショップでは３人のゲストを招いてディスカッションを行う予定である。
・次回は１月中旬に開催を予定している。

以上